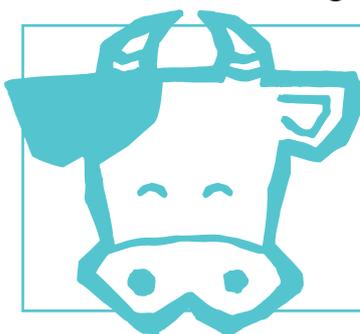


M・O・H 通信

7号
2005
June



「M・O・H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします

人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH (もおっ)

M → **も** **もったいない**
循環
他の生命を奪って得たものを使わせて頂く

O → **お** **おかげさま**
共生
人は一人では生きられない、環境によって生かされている

H → **ほ** **ほどほどに**
抑制
欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために



井醒めの清水で有名な醒ヶ井・地藏川沿いにある八百屋さん。

目次

<特集>循環型社会にむけた 行政の取り組み

- 「水と緑、人の行き交う高島市」の創造をめざして…………… 1~2
高島市 海東市長インタビュー
- 里山暮らしの住環境整備…………… 3~4
高島市の取り組み
- 東近江市が菜の花でつくる持続可能な社会…………… 5~6
あいとう菜の花館 野村館長
- 古民家を大切に使い続ける意味…………… 7~8
古材バンクの会
- 新エネルギーを探る…………… 9~10
愛 地球博
- もったいないの先駆者9名が「MOHの会」を宣言…………… 11~12
MOH通信執筆者懇談会
- 「地球にやさしい技術」…………… 13~14
内藤 正明
- 小さな村の大きな夢…………… 15~16
今関 信子
- M・O・Hの窓・投稿コーナー…………… 16
- 環境倫理学講座 Part.7…………… 17~18
本田 祐志
- 節約生活術(?) (4コマ漫画)…………… 18
オノ ミユキ
- 循環型社会入門④…………… 19~20
森 建司
- 講演日記…………… 20
- 「人間学」を学ぼう…………… 21~22
井上 昌幸
- 本の紹介…………… 22

表紙の言葉

裸で生まれて、裸で死んでゆく。生きてゆくことは「借り物」だから丁寧に扱うことが大事。命も地球も自分自身も。私のものなどどこにもないのです。

岸田京子 京都市 50代

循環型社会にむけた行政の取り組み(1)

「き交う高島市」の創造をめざして

滋賀県高島市 市長
海東 英和

くらしやすさと自然の共生をめざす高島市

今年1月1日に誕生した高島市。市長の海東英和さんは新旭町の町長から市長に当選。町長時代から、町づくりのユニークさでは定評のあった海東さんに、湖西の町づくり、新市での取り組みなどを語っていただいた。

高島市らしく
環の郷をめざして

編集室 新旭町での取り組みも含

めて、湖西・高島市の町づくりの方向性などをお聞かせ下さい。

海東 高島郡の6町村が合併して誕生した高島市は、面積511平方キロメートルと滋賀県で最も広く、新旭町の17.8倍の面積があります。

新市での取り組みの第一の柱は高島市らしさの発揮です。今までそれぞれの町で人々が暮らし、その中で守られてきた色々な豊かさがここにはたくさんあります。その豊かさをき

ちんと位置づけし、守っていく仕組み作り。その柱がいくつかあります。

例えば集落の景観もその一つ。昨年10月には文化財保護法の中に、重要文化財的景観という概念が盛り込まれたが、自然の摂理に沿いながら暮らししている人々によってもたらされている景観を、価値あるものとして評価していきたい。決して遅れたタサイ所ではなく、博物館に入るような暮らしがここには毎日生き生きと繰り返されている。その背景には、水を汚してはいけないとか、子どもたちの未来にゴミと借金だけを残してはいけないという当たり前の精神がある。もったいないという精神が暮らしの中に残っている。そんなことを評価しながら、我々の手法で集落や里山の自然を守って行きたい。この地域にはお金では簡単に買えないものがたくさんあり、それを大事にしていくことがまず一つ。

二つ目の柱はつながりの復活。私は「環の郷」と呼んでいます。地域に豊かさを循環を作り直したい。その中には菜の花プロジェクトの循環もあります。里山に手を入れる仕組みの復活もあります。また環境に良い農業、生物の多様性を守る農業をする人たちを、きちんと評価し応援する制度を作ることも考えています。福祉の面でも介護保険を利用してコミュニティビジネスを広げていくことを考え、提案しています。

広い高島市内には森林資源、農業資源、畜産のうんちやおしっこもあります。すべてが資源です。うんちやおしっこなどの邪魔者も、宝物に変えていく仕事がいっぱいあり、フアイトが湧いてきます。

山のエネルギーを
バイオマスで活用

編集室 バイオマスは新エネルギーへの新しい産業として注目されていますが、その取り組みですね。

海東 4月1日に正式稼働を始めた木質バイオマスを利用した地域熱供給の施設ができました。これは木質チップでお湯を沸かし、お湯を地域へ供給し、熱交換機で熱を取るという仕組みで、温水プールと、隣にある老人ホームへの熱供給を行っています。

山のエネルギーを暮らしのエネルギーに変えるという願いがかたちになったもので、運営においても評価されるようにこれからの奮闘努力も責務です。こんな小さな町で、こんなに新しいエネルギーへの取り組みがあり、できると言うことを実証したいです。

なるべく、自分たちの地域の中で作れるものは作る、回せる仕組みは回すという取り組みが是非必要で、日本で一番妥当性のある取り組みだと思っています。

また、開拓してきた泰山寺野というところには、現在牛糞が山積み状態です。それを資源にするようなバイオマスプラントも考えています。高島市にふさわしいものをそれぞれの中心で考えて行きたいです。

編集室 なんだかこちらも応援したくなります。

海東 夢でもあるのですが、地域通貨への取り組みもしてきました。地域の中で仕合わせの循環を広げることがテーマです。そして地域できちんと良い仕事をすれば、住んでいる国に対しても、役割や使命を果た

「水と緑、人の行

していけると考えています。

例えばお米。外国から買えば国内で作る必要が無くなくなってしまう。でもお茶碗一杯のご飯でオタマジャクシが35匹養え、3杯なら赤とんぼが1匹空を飛ぶ。アメリカから米を買えば里山が守れない。オタマジャクシも赤とんぼもそのほかの生き物も、我々の近くで暮らしていけないと言っていることを、地方の自治体として訴えて行きたい。つながっている環の郷のイメージには色々な意味が込められているのです。山の資源を活かしていくためには受け皿が必要です。今日まで、森林文化を守ってこられた方の期待にも是非応えたい。

何を自分たちにとって価値のある文化として受け継ぎ、何を新たに創

造するのが曖昧になっていきますが、そうしたことを見詰め直す取り組みもしていきたい。便利、スピードという尺度だけで考えると、地方は価値の無いところになってしまっています。けれど、丁寧、間を楽しむ人の豊かさから言えば、こちらが良いわけです。スロー礼賛だけでは暮らせませんが、スローを大切にできる仕組み作りを求めて行こうというのが、全国スロータウン連盟の取り組みです。町長時代に全国60ほどの市町村と勉強会をしてきました。小さな単位にこそ豊かな仕組みがあるという、ローカルスタンダードというか、スモールメットと言う発想も大切にしながら、合併によるスケールメットも活かして行きたいです。

市民でとりくむ 「あるもの探し」

編集室 これからの高島市から目が離せませんね。

海東 今回の市長選挙は投票率81.77%でした。借金があり収入も少ない地域をどうしたらいいか、市民は真剣に考えられたと思います。きっと高島市はみんなの力で自治を考え、作り、未来を創造していく地域になると思います。

地方自治体は具体的な成功事例を作ることができます。そのことによって未来を作って行けます。ぜひ、私たちも力をつけて行かねばと思っています。ないものねだりからあるもの探しという言葉を掲げましたが、そん

なことから僕に対する思いを持つて下さる方が増え、すごいことがおこるかもしれません。

高島市が頑張っていること、例えば琵琶湖の水をきれいにするお米を買ってください。循環が生まれます。応援団が必要です。共感の環が広がるように頑張りますので、ぜひ応援して下さい。

編集室 海東市長の個性と地域の人たちの思いによって、新しい地域ができることを楽しみにしています。今日はありがとうございました。

海東 美和

●かいつ ひでかず 119600(昭和35年)高島市新旭町針江に生まれ。龍谷大学経済学部卒業後、新旭町役場職員、新旭町町議会議員などを経て、1999年に新旭町町長に就任。2004年12月の市町村合併による閉町までの2期を勤める。また、新旭町町長時代には、高島地域合併協議会会長も勤める。2005年2月より旧高島郡6町村が合併して誕生した高島市の初代市長に就任。現在に至る。

青年団活動で鍛えた行動力と若さを武器に、皆が仕合わせ(しあわせ)になれる仕組みづくりとともに、「ないものねだりより、あるもの探し」をモットーに、郷土の魅力や宝物を見つけ、磨き、地域の元気を作り出す活動を展開中。

また、高島市は「水と緑 人の行き交う高島市」をスローガンに、自然の摂理に沿った政策を、環の郷(わのさと)の地域づくりとし、人と自然がともに生き、永続可能な暮らし(サステイナブルライフ)の実現をめざす。スロータウン構想やエコトリスムの推進、食育活動などの取り組みを通して、物だけでなく人の心の豊かさを追求し続ける。



「おはよう！」元気に声をかける。職員笑顔が元気の源。

循環型社会にむけた行政の取り組み(2) 里山暮らしの住環境整備



高島市の取り組み

高島市新旭は昔ながらの里山暮らしが続く土地柄。住環境と人の生活と里山の自然をうまくかみ合わせた整備が必要とされる。全国でも先進的な整備状況を見てみよう。快適に暮らし、自然と共に生き、交流もできる、開かれた里山暮らし。人懐っこい笑顔がとて印象的だった

ソーラーで蓄熱中。ため池もある。

1.新旭里山体験交流館「もりっこ」

新旭町饗庭北谷の入口に、平成16年秋完成。無限でクリーンなOMソーラーシステムを採用した建物は、広い土間から会議室、多目的室、シャワー室など、どこへでも行ける間取りも特徴。敷地内には雨水が水源のビオトープ、里山体験を行う「文化体験施設」、散策路などがあり、自然の大切さを学び、考える場として活用されている。

所在地:高島市新旭町饗庭



「山菜がこんなに採れるのよう」打ち合わせ中です。



裏山の木を使った、机など、工作もできます。



外框(そとかまち)野菜の洗い場。川が流れる。

2.町並み保存

畑で野菜を耕作し、稲を作り、日々の食卓には自家製の漬物が並ぶ。家の前には湧き水を引いた川が流れる。湧き水を引いた洗い場が外框だ。泥のついた収穫物はここできれいに洗われる。昔の農家では当たり前の風情だが、生活の中で今も現役で使われているのは珍しい。S字にカーブした道路に農家の家並みが今も残る。どこか、昭和のにおいがする、懐かしさに満ちた町並みだ。



「ほら、鯉がいよるでしょ。鳥が狙っててねえ。畑で取れた野菜をここで洗うのよ。」

湧き水を引いているので透明で清冽な水。



落ち着いた構えで「ゆったり」した居住空間。



太陽熱温水器が設置されている

3.市営住宅・北畑団地

平成14年に起工、15年に完成した(当時は新旭町)北畑団地は、「自然と共生する快適なまちづくりの理念」に基づき建設。地元木材を使用した木造住宅で、町営住宅では県内で始めて太陽熱温水器を設置、宅地内の防犯灯にはソーラー式を採用、雨水の地下浸透樹も設置した(平成14年度に20戸・13棟を建設)。

所在地 高島市新旭町北畑



木質バイオプラント



温水プールに熱を供給



原料の木質チップ



支給熱料金が記録される



制御盤で24時間管理されている。

4.高島市熱供給施設

新旭健康づくりセンター「いきいき元気館」(温水プール)と隣接する老人ホーム「ニューサンライズ」への熱供給に採用されたのが、木質バイオマスを燃料にした熱供給施設。木は大気中の二酸化炭素を吸収し、燃やされると二酸化炭素を排出、この施設により自然界での循環が成り立つだけでなく、森林資源の有効活用も図れる。平成17年1月完成。

所在地:高島市新旭町北畑

5.食育への取り組み

平成13年から新旭町で始まった取り組み。地域での親子エコ・クッキングや農業小学校での料理教室、育児サークルでの親子料理教室などを開催。この活動を通じて、食事に対する感謝の気持ちやマナー、みんなで楽しく、健康に気づきながら食べることを伝えてきた。食育は幼児期からと、保育園・幼稚園児を対象に「幼児料理教室」が、平成15年からスタート。ボランティアスタッフと子どもたちのふれ合いも育みながら、郷土の味や家庭の味の大切さなど、食文化の継承に一役買っている。実施:4・5歳児クラス スタッフ:栄養士、食育ボランティア(約20名)、健康推進員(約10名)、保育士・保健師・管理栄養士



現場のふれあいで食育を伝える

「お問い合わせ」
高島市役所企画部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑5665
TEL.0740(25)8130
FAX.0740(25)8101

循環型社会にむけた行政の取り組み(3)

あいとう菜の花館

が菜の花でつくる“持続可能な社会”

東近江市あいとうエコプラザ菜の花館 館長
野村 正次

菜の花とマーガレットステーションと野村館長

滋賀県東近江市(八日市、永源寺、五個荘、愛東、湖東)の愛東地区は住民によるゴミ分別運動や、せっけん推進運動が早くから活発に行われていた。1998年に愛東から始まった菜の花エコプロジェクトは全国に波及している。BDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)プラント、炭化プラントを設置した「あいとうエコプラザ菜の花館」を取材した。館長の野村正次さんにお聞きした。

せっけん運動から始まる
「あいとうリサイクルシステム」
20年の歴史

編集部 愛東は資源ごみの回収に力を入れておられますが。

野村 土台にあるのは、琵琶湖のせっけん運動です。「消費生活学習グループ」のメンバーたちが家庭から発生するゴミの減量化、資源化に取り組んだことから始まります。昭和56年ごろです。当初は、ビン・カン、廃食油を年1〜2回の回収でしたが、回数

や回収品目が増え、昭和61年から自治会と行政と団体が協力して町を挙げて「あいとうリサイクルシステム」に取り組むことになりました。現在では、7品目11種類を回収しています。第2日曜日を資源の日として、各家庭から自治会の集積所へ、そこから地区のストックヤードへ搬入されます。もう、この仕組みができて20年が経ちます。この仕組みによつて、廃食油も月1回収まるようになっていきます。

廃食油の再利用から
菜種栽培へ、地域自律
の循環モデルをつくる

編集部 菜の花エコプロジェクトが始まったきっかけは？

野村 せっけんに替わる廃食油の活用方法を検討されていた、滋賀県環境生協

の藤井絢子理事長の提案を受け、平成8年にBDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)プラントを導入しました。当時、てんぷら油で車が動くという現象に驚きと可能性を感じたと聞いています。

そして、平成10年には菜種栽培に着手しました。廃食油のものである油をすることで、持続可能なエネルギーを供給しようという試みを始めたわけです。当初30アールで始めた菜種栽培が、現在は12haに拡大しています。廃食油の回収から菜種栽培に発

展することで、さまざまな広がりが生まれてきました。廃食油の回収からせっけんを作るという小さな循環が、エネルギーや農業・農村の再生という大きな循環の輪に発展をしています。地域自律(自立)の具体的な循環モデルとして、今や、全国143地域・団体に広がっています。

菜の花館を拠点に

編集部 行政としての取り組みは？

野村 これまでの経過をもとに、資源循環の地域モデルをより推進するための拠点施設として、今年の1月に「あいとうエコプラザ菜の花館」を開館しました。2月には1市4町が合併して東近江市が誕生しました。そうした記念の意味も含めて、全国菜の花学会・菜会を4月29〜30日に開催しました。全国各地から2日間のべ550名の参加を得て、充実した大会にすることが出来ました。新市の皆さんにも菜の花プロジェクトを知っていただける機会にもなつたと思っています。



清潔な資源ごみ集積所、市民が洗浄、分別をして出している

東近江市



「菜の花トーク」末松内閣参事官、國松知事、藤井会長



「未来世代が取り組む菜の花プロジェクト」高校生の発表



菜の花学会で談笑する知事と参加者

過程で、農業、教育、環境・エネルギー、観光、交通等、その効果を發揮するためにも、行政の各部署での連携・循環が必要です。
その一方で、理想だけでは循環の輪は広がりにませんから、菜種栽培や菜種油、BDFの

これまで5700人の町が7900人の市になったわけですから、当然廃食油の量も増えます。それを回収する仕組みを作ることや、出来たBDFを市民の皆さんが実感でき、くらしの中で利用を進めていくことが必要だと思っています。そうすることで、プロジェクトの意義も浸透していくと考えています。

世界に誇る地域モデルを目指して

編集部 今後の課題は？

野村 菜の花プロジェクトは環境・エネルギーはもちろん、農業・農村の課題解決を巻き込んだ幅広い循環の輪に広がる可能性を持っています。菜種栽培からBDFの利用に至る

経済性の追求も必要です。資源作物を支援する国の施策と併せて、経済的に自立できるコミュニケーションを確立することが必要だと思っています。

編集部 館長の夢をお聞かせください。

野村 今、菜の花館はNPOに一部運営を委託しています。そこを拠点にNPOは市民の立場で活動を展開



菜の花プロジェクトが紹介された

「愛東モデル地域循環システム」

こだわり農業推進

- ① 転作田で菜の花を栽培→乾燥・搾油(油粕は肥料)→菜種油→家庭・学校給食→廃油回収(市販油含む)→菜の花館BDFプラント→BDF(公用車・トラクター・ディーゼル発電機に利用)
- ② 水稲田→もみ殻→農協・農家(カントリーエレベーター)、剪定枝・木屑→菜の花館炭化プラント→くん炭→畑・水稲田。熱利用→菜の花館、あ

いとういきいき元気館に熱利用。



炭化する過程



炭化装置、1時間当たり120kgのもみ殻を炭化



出荷を待つ、くん炭



BDFプラント、1回の200lの廃食油をバイオディーゼル燃料に変換



製品

野村正次

その地域モデルを東近江市で創っていきたいと思います。
編集部 ありがとうございます。

●のむら まさむね 1956年生。1978年、愛東町役場就職。社会教育、広報、企画、介護保険等を担当後、2001年より環境担当、あいつつエコプラザ菜の花館の整備検討を担当。2005年2月合併より現職。

●東近江市あいつつエコプラザ菜の花館
II場所 / 〒527-0162 滋賀県東近江市妹町70

TEL 0749(46)8100
FAX 0749(46)8288

古民家を大切に使い続ける意味

NPO法人 古材バンクの会 理事
白石 秀知

京都市に事務所を置いて古材バンクの会が活動しています。木を大切に使うこと、日本の伝統的建築技能を継承することなどを目的としたNPO法人です。循環型社会または持続可能な社会づくりへのわかりやすい、第一歩ではないでしょうか。少し前まで、家づくりは家族と地域の人たちの協働作業でした。身の回りにある自然の材料を切り出し、昔から伝わる技法で、みんなと一緒に作業をし、教えあい、語り合いました。現在の暮らしの中で少しでも取り戻したい…そんな思いが感じ取れます。

■会の目的と活動

古材バンクの会(会長：永井規男 関西大学教授)は、1994年9月に、木の文化の危機に心を痛めた幅広い

市民を集めて活動を開始し、2001年4月にNPO法人(特定非営利活動法人)として認可を受けました。現在、会員数は近畿を中心に全国で300余名、事務所は京都市東山区にあります。

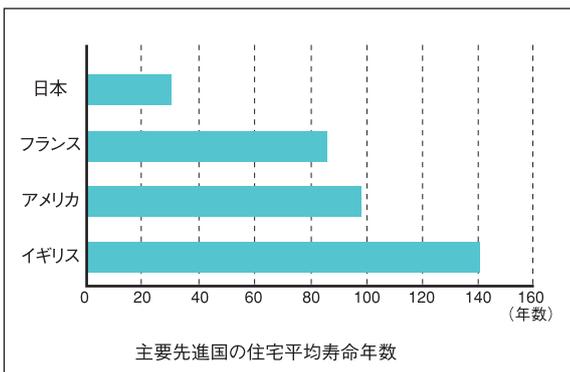
会は、3つの目的を掲げて活動しています。第一に、提供者と利用者のネットワークを作り、古建築及び古材の活用を促進すること。第二に、伝統的木造建築文化と建築技能の継承・発展を図ること。第三に資源と共存する持続可能な社会の実現を目指すことです。

■寿命の短い日本の住まい

一般にはあまり知られていませんが、日本の住宅の平均寿命は約30年です。これはフランスの2分の1弱、ア



高島市安曇川町で再生された古民家のダイニングルーム



メリカの3分の1、イギリスの5分の1強しかありません。

【事例紹介】

高島市の安曇川中流、比良山系の北端に位置する阿弥陀山の麓の集落に建つ、築後約150年の古民家が再生されました。これは「古材バンクの会」のアドバイスにより、古民家の再生が実現した事例です。再生を考える住まい手にとって、不同沈下している柱や、もろくなっている梁が本当に再利用できるのは不安なことです。そこで、経験豊富な「古材バンクの会」のアドバイザーが現地調査し、再生ができるのか、また、どのように再生すべきかを助言しました。

調査の結果、北西側の外周の柱は風雨にさらされ傷んでいたものの、内部の軸組は囲炉裏やかまどから立ち上がる煙で黒く燻され、虫食いも少ないため、できる限り再利用することを勧めました。使い続ける古材と、役割を終えた古材を見極めることが、古材を生かし、建物を使い続けることにつながります。

そして、この住宅は以下のようなこだわりにより再生されました。

●記憶にこだわる

家族の生活が永く営まれてきた歴史が染み込んだ家を、これからも、子や孫たちに住み継いでほしい。

●素材にこだわる

先祖から受け継がれた木をはじめ、石、土、布、葦、紙などの自然素材を利用。

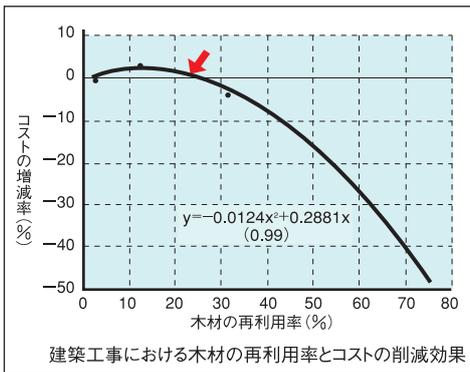
●技術にこだわる

再生の技術、素材を生かす技術など控えめながら、確かな技術を持つ

■古民家再生の意義

自然素材である木材を使うときには、少なくとも50年から100年の時間をかけて育ってきた樹を消費していることを深く自覚し、木造住宅や木製家具を長く使うことが必要です。世界の木材輸入大国である日本で、住宅など木造建築の長寿命化を図ることは、世界の森林資源を守る面からも重要です。

また、地球環境保全の上からも、二酸化炭素排出量の削減のためには建築物の耐用年数を延長することの必要性を意識しなければなりません。さらに、古民家を再生して現代に活かすことは、建設に係る資源及びエネルギー使用量や経済コストを削減する面からも有効です。



■古民家再生は木の文化の保存

古民家には今では手に入らない貴重な材料が使われていることも多く、古民家を保存することは、職人技能

として伝えられてきた木の使い方の文化を保存することにもなります。

しかも、木材は、古材でも新材でも強度はあまり変わりません。逆に、ヒノキ材などの針葉樹材では、4000年位まで強度が徐々に上がることが解っています。法隆寺の5重塔の心柱の強度は新材の強度と遜色がないという調査結果が出ています。これほど、木材は優れた素材なのです。

加えて、古材には時間の経過とともに、風雪に耐えた風格が増し、新材の初々しさとは違った魅力が加わってきます。

■古材リユースセンター

古材バンクの会は、全国の市町村毎に一つ以上の古材リユースセンターをつくることを提案しています。

私たちの地球環境は未来の世代からの預かりものであり、子孫に汚して渡すことはできません。現代の環境破壊は私たちの世代が責任を持って解決していく決意をもつて、当会は活動したいと思っています。

当会の活動と古材リユースセンターの実現に皆様方のご協力をお願いします。



古材リユースセンターの役割

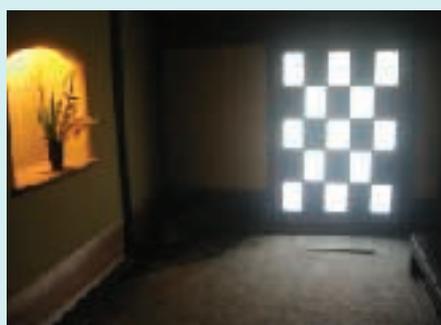
職人技に敬意を払う。

●環境にこだわる

空気の流れや光の取り入れなど、自然環境とともに機能してきた民家の知恵を活かした家づくり。

●地域にこだわる

地域で活動する陶芸家や染色家、木工作家などの工芸作家の協力で空間を彩る。



玄関

白石秀知

●しらいし ひびくも 1948年生まれ。古材バンクの会理事。京都府農林水産部林務課職員

●NPO(特定非営利活動)法人「古材バンクの会」

〒605-0981 京都市東山区本町1丁目554番地

TEL:075(532)2100

FAX:075(551)9811

E-mail:kozaibank@ybb.ne.jp

URL: http://www.wood.jp/kbank

フォトニュース—NEDOのバイオマスガスシステム

新エネルギーを探る

—愛地球博



NEDO技術開発機構パビリオン 未来のエネルギー探求ツアーの受付はこちら

資源循環社会にはなくてはならない、新エネルギーの技術はどこまで開発されているのだろうか。日本の資源循環技術の現状を探ってみた。

愛地球博会場に設置されている、新エネルギー等地域集中実証研究のプラントを見学する「感じよう！自然を活かす新技術 未来のエネルギー探求ツアー」(NEDO館)に参加した。

NEDO館は独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構が展開している。新エネルギープラントはNEDOがいくつもの企業に委託し実証研究を進めている新エネルギー地域集中実証研究だ。この実証プラントで発電した電気は長久手日本館やNEDOパビリオンに供給されている。

最新のプラントで エネルギー供給

このプラントは、地球環境にやさしい循環型システムの「新エネルギープラント」で、生ごみ・木材・ペットボトルを原料とする「熔融炭酸塩形(MCFC)」「りん酸形(PAFC)」「固体酸化物形(SOFC)」の3タイプの燃料電池と、太陽光発電、電力貯蔵システム(NaS電池)を組み合わせ実証研究している設備で、燃料電池の運転時に発生する熱で冷水を作り、館内の冷房にも活用している。

生ごみはメタン発酵システムでメタンガスに変え、木材・ペットボトルは高温ガス化システムでバイオガスに変える。それらを燃料電池(MCFC)で発電する。このプラントの全ての設備はエネルギー制御システムで制御され、最適な電気の需給バランスを保つよう計画されている。

太陽光発電は光で熱を吸収し発電する。

NaS電池は巨大な蓄電池。電気を貯めたり、出したることができる装置だ。(システム紹介Ⅱ NEDOパンフレット抜粋)



高温ガス化システム

【メタン発酵システム】

生ごみはメタン発酵菌という微生物の働きによって、天然ガスの成分でもあるメタンガスと消化液になる。メタンガスは燃料電池が発電するときの燃料となり、まだ栄養分の残った消化液は肥料として使うことができる。

【高温ガス化システム】

不要となった木材、ペットボトルを細かく砕き、高温ガス化炉において1200℃の熱を加えると、水素と一酸化炭素がつくられる。燃料電池の燃料としてつかえるうえ、高温処理なのでダイオキシンなど有害物質は発生しない。

【りん酸形燃料電池(PAFC)】

電解質はりん酸で、1600〜2000℃と比較的低温で動作する。発電効率は35〜42%。すでに国内外でさまざまな施設に設置されている。

【熔融炭酸塩形燃料電池(MCFC)】

電解質には熔融炭酸塩がつかわれ、600〜700℃と高温で動作する。発電効率は45〜60%。バイオガス燃料との相性が良く、本プラントでは都市ガスだけでなくメタンガスと高温ガス化ガス(バイオガス)を燃料とする。

【NaS電池】

液体ナトリウム、液体硫黄、特殊セラミックからなる蓄電池で自動車、バッテリーの3倍の蓄電能力がある。このプラントでは電気使用量が多い昼間でも、夜間に蓄えた電気を供給することでも、もっとも電気がつかわれるときに足りない電気を補うことができる。

分単位で電気を貯めたり供給したりすることにより電気の変動にも対応できる。

【太陽光発電システム】

エネルギー源が太陽なのでお金がかからず、なくなることもなく有害物質



メタン発酵システム

【固体酸化物形燃料電池(SOFC)】
電解質としてジルコニア系セラミックスが用いられ、温度は約1000℃で動作する。SOFC単体でも発電効率は40%以上だが、ガスタービン/蒸気タービンとコンバインドした大規模発電装置なら70%まで上げることができる(研究中)。



エネルギーを利用する日本館

を出さない。太陽電池に用いられる半導体はP型とN型の二つを重ね合わせ、光を当てることで両面がそれぞれプラスとマイナスになる。そこに導線をつなげば電気を導く事ができる。このプラントでは発電効率の良い多結晶タイプを使い会場内の一部エリアで複数の新エネルギーシステムを組み合わせ、安定して最適な量の電力を供給する制御システム(いわゆるマイクログリッド)を構築している。

【NEDO 技術開発機構】

日本最大の技術開発機関として中心的な役割を果たし、さまざまな研究開発プロジェクトにマネージメント機能を提供する研究開発プロジェクトのコーディネーター。産業界や大学などから広く知識と技術を集め、公的資金を活用して推進している。

新エネルギーを暮らしに取り入れるための方策を志賀英俊さん(新エネルギー技術開発部 契約・管理・調整グループ主査)に聞いた

40年後のエネルギーを生み出す

編集部 新エネルギーの必要性を教えてください。

志賀 化石燃料である石油は40年程度の可採量しか残されていないと言われています。40年後にも現在の生活を維持するためには化石燃料に頼らない新しいエネルギーを確保する必要があります。エネルギー源は分散型にして小さな発電機を持ち、太陽光、風力などのほか木材、廃ペットボ

トル製品、生ごみ、天然ガスをエネルギーとする技術が開発されています。風力発電単独では北海道などでNEDO事業として取り組んでいますし、マイクログリッドという小規模電力網の技術も実証しており、将来は離島などに有効だと思います。また、地球温暖化防止にも役立ちます。

効率に課題を残しています。NEDOでは、二分の一の共同研究により産業用等に太陽光発電を設置できる制度も準備しています。集中的な実証は群馬県太田市の団地で行っています。現在、太陽光発電を大規模に系統に連系するとどんな問題が発生するかを実証研究中です。他にも京都府京丹後市、青森県八戸市にも新エネルギー実証プラントがあります。

編集部 開発実用化の方向を教えてください。

志賀 エネルギー需給バランスを調整して安定させることです。小地域でも制御できるという実証研究にも取り組んでいます。今後は木質・生ごみ・廃ペットボトルなどあらゆるバイオマスを活用し、発電できるコンパクトな発電システムの実用化などがあります。

編集部 COP3でCO₂の削減が急がれていますが。

志賀 はい、日本は、2010年までにCO₂などの排出量を6%削減するという条約を批准しています。末端への浸透が急がれます。

太陽光発電の技術はトップクラス

地域特産品残渣をエネルギーに

太陽光発電の技術はトップクラス

編集部 エネルギーにしやすいのは？

志賀 太陽光発電です。日本は世界でもトップクラスの技術力ですが、商業電力の価格差と設置面積(発電

編集部 自治体の担う役割は？

志賀 大きいです。新エネルギー導入のビジョン(方針)を打ち出すための調査が大切です。自治体から県、そして国へ働きかけてほしい。規制緩和の措置も必要になるでしょう。電気会社に新エネルギー確保を義務付ける(RPS法)も有効です。

編集部 課題を教えてください。

志賀 同一条件の先進地域を見て、特質を知ってビジョンを打ち出してください。地元から出る大量のバイオマス残渣を確保し、エネルギー転換を考えてほしい。特産物の残渣は有効活用できます。まちづくりと平行して協議してくださいませ…

編集部 どうもありがとうございます。



溶融炭酸塩形燃料電池

南アフリカ館

南アフリカ館でかわいい民芸品を見つけた。よく見ると、プラスチックを材料にしている。館長のツエボ・マケーンさんに聞いた。



かわいい象さん

動くカメレオン



編集部 これは手作りですか？

館長 はい、工芸品です。女性たちが趣味で作りました。この愛地球博では自然の英知を表現していますが、そうは見えないでしょう。環境にやさしい表現をしてみました。

編集部 日本の印象はどうですか？

志賀 私は日本も日本の人も好きです。暖かくてフレンドリー。インフラが整備されていることが印象深いです。リサイクル工場でエネルギーをつくった技術が進んでいることにも驚きました。

編集部 どうもありがとうございます。

先駆者9名が「MOHの会」を宣言

■2005年3月30日(水)

■一京都・がんこ 高瀬川二条苑



どうやら自民党が「もったいない運動」を始めるらしく、ケニアのマータイ環境副大臣の「もったいない」が本になり、「もったいない、おかげさま、ほどほどに 循環型社会入門」(森建司著)が7月26日発売される……と、にぎやかになってきました。

そこで、もったいないのバイオニアを自負する、MOH通信の著者たちが啓発・普及に向けて懇談会を開催しました。ここでは、執筆者による「MOH講座」を、10月開講の龍谷大学瀬田キャンパスRECコミュニティ講座と、滋賀経済同友会の分科会で開催すること、中小企業家同友会での「会員獲得」。「MOHの会」の発足に向けて話し合われました。まずは、自己紹介から、読者の皆様に執筆者を紹介します。

出席者は左の方々です。(敬称略、順不同)

- 内藤 正明(NPO循環共生社会システム研究所代表理事・仏教大学社会学部教授)
- 末永 國紀(財団法人近江商人郷土館館長・同志社大学経済学部教授)
- 本田 裕志(龍谷大学文学部助教授)
- 今関 信子(児童文学作家)
- 森 建司(循環型社会システム研究所代表・新江州株式会社社長)
- 井上 昌幸(滋賀県異業種交流連合会副会長)
- 佐々木 洋(洋画家・佐々木製版代表)
- 本間 義典(滋賀県中小企業家同友会代表理事・本間工業株式会社社長)
- 小川 暢保(新江州株式会社循環型社会システム研究所所長)

内藤 工学系が先導する研究は環



左=内藤正明 右=井上昌幸

境破壊がいっぱい。やつてる本人は知らずにしていることなので、私は厳しい批判をしています。

MOH通信は面白かった。私より過激な森さんに驚いた。そして私の言いたかった倫理を本田先生が伝えてくださっている。MOHだけはお断りしません。

私には4つのオフィスがありまして、いたりきたりしています。循環共生社会システム研究所が京都の三条にあります。このたび滋賀県の琵琶湖・環境科学センター(6月開館)のセンター長を務めることになりました。国が主催する産業ビジネス持続可能プロジェクトにも参加していますので、情報交換させていただけたらと思っています。

私の活動に近いことが、ここにはいっぱいあるように。ぜひお役に立ちたい。末永 同志社大学で教鞭をとっております。近江商人の研究を30年以上続けています。彼らの残したものが面白く、そろそろ趣味の境地になってきました。本も出版したのですが、売れなくて…勉強不足だと反省しています。

滋賀あきんど委員会と森会長と

もったいないの



左=今関信子 中=末永國紀 右=本田裕志

同席しております。丁稚奉公の経験や辛抱・根性・気配りのお話が面白く、本物やなど感心します。

幼少のころの嫉は肝心です。M・O・H通信はタイピングがいい。句の話題を提供してくれています。浸透していくことが必要です。及ばずながら力添えします。

本田 今日環境破壊の一環の花粉症でくしゃみとまらさず、遅刻して失礼しました。龍谷大学の本田です。私の専攻は倫理学で、現在は大学で環境倫理を含む哲学・倫理学の教鞭をとっています。M・O・H通信との縁ができて1年になります。

末永先生の三万よしに対する考え方は勉強になりました。私は東京出身なので、近江商人というと西武グループの堤一族を想像します。だから、近江商人のイメージが悪い。西武は自社の利益第一で、社会への利益還元熱意が弱い企業という印象があります。それから、けれどもM・O・H通信で、近江商人の歴史や伝統、現代にも生かせる知恵を学びました。

今関 私は子どもが読むための本を書いています。赤ちゃんのための本か

ら、中高生が読むものまで、幅広く手がけます。

森先生とは滋賀県教育委員会でお会いしました。文学がお好きで、私の書いた本を面白いといってくださいました。私は心と心が響き合うことが大事だと思っています。社会的に見ると大きな働きができない人たちも、大切な地域社会の一員であることを、ひとつずつ丁寧に、作品にして伝える事が私の役目だと思っています。

皆さんとは立場が少し違い、大丈夫かなって心配ですが、今日は大喜びでやってきました。

森 先生方とのすばらしいネットワークができたことを感謝しております。会社経営の一線を降りまして、会長職にいますと、経済社会はこれだけいいのかなと不安になります。人間関係の濃密な循環型社会を、生きているうちに作っておこうと発奮しています。おかげさまで去年の講演は37回延べ1800人の人が私の話を聞いてくださいました。

将来的にはM・O・Hの会とM・O・H通信は、PHPを超えた存在にしたい。今年のテーマは「循環型社会の生活とビジネス」にしようかと。企業家や社会人、そして生活者を対象に、一回り大きな活動をしたい。ぜひ先生方のご示唆を賜りたいと思っています。

本日は、中小企業家同友会の代表理事で、近畿経済産業局主管のエネルギー環境プロジェクト、略称EENEネットの専務理事である、本間さんに同席いただいております。(余談ですがEENEネットの理事長を拝命することになりました)

お力添えをお願いします。

井上 5年前に定年退職しまして、コンサルタントグループに所属しています。現在、循環型社会の中に必要な、資源エネルギーのバイオマスガス発電とエネルギーの研究のお手伝いをしていきます。

中国の古典や東洋思想が好きで、昔のいいところを見直してほしいと思います。M・O・H通信に書かせてもらっています。

滋賀県に住んで40年になりますが、環境はすっかり変わってしまいました。昔のご飯はおくどさんで炊き、炭焼き小屋があり、家には家畜がいて、見渡す限り田畑だった。化石燃料に頼らないバイオマスの大切さを感じます。

佐々木 森会長と40年来のお付き合いで、公私ともお世話になっていきます。M・O・H通信の挿絵を描いています。が、普段書いたことがないので、資料集めからしています。

今関先生の作品を読むと、ほろりとするので、何とか絵に表せないかと苦心しています。

森会長の文章は難しく、咀嚼し切れるかどうか？ 繰り返し読ん



左=本間義典 右=森建司

でイメージをつかんでいます。

私は田舎者で、もったいないは日常語だし、近江商人の流れも汲んでおりますので、M・O・Hの発展にお手伝いしたいです。

本間 薬害スモン病や公害が発生したところから、平成元年にかけての高度成長期に琵琶湖は汚れました。そのころから関心はあったので、中小企業家同友会で環境をやっている中で、内藤先生の「蛇口を閉める」、森会長の「意識を変えろ」、これだと思いました。中小企業家同友会の中で「環境なくしてビジネスなし」といつておりまして、EENEネットは環境と新エネルギーで環境を高度化するために行動をおこしています。

おかげさまで、環境を考える中でM・O・Hの精神を伝えられそうです。森さんの思いと情熱をより多くの人々に広げるため、会員獲得に励みます。

小川 日ごろは大変お世話になっていきます。M・O・H通信は創刊準備号からスタートして、どうなるかと思いましたが、先生方のおかげでファンができています。

私は、地方政治家から県会議員を16年務めました。師の沈没とともに私も沈没、同時に森会長のお体も沈没と、奇妙な縁で、森会長の仕事を手伝っております。

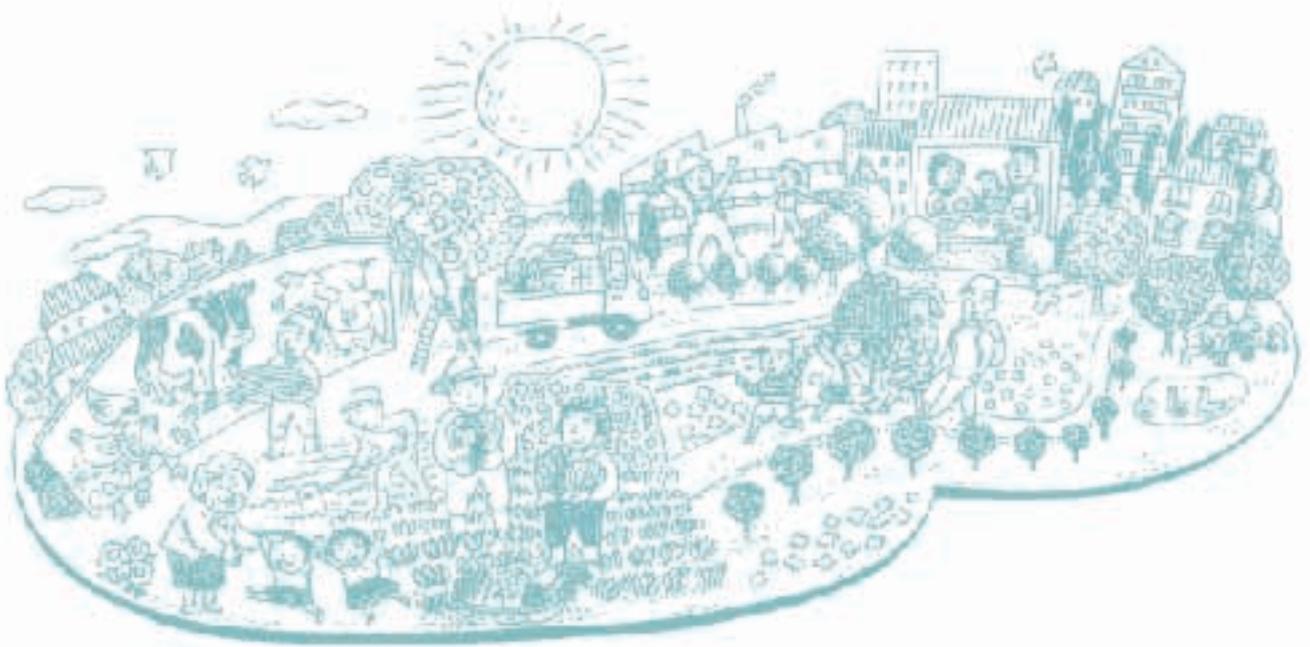
大きな時代の変わり目にもかかわらず、誰も未来像を語らない。その中で、森会長の未来像とロマンを実現させる研究所を作ろうと会社内に設置していただきました。M・O・Hは、次世代の社会像とビジネスを探るCSR部門という位置づけです。

(以下次号)

「地球にやさしい技術」

— 理念と方向 —

内藤 正明



「地球にやさしい技術」

今日の社会が持続可能でない理由は、大量生産・大量消費「この社会がもたらした」資源と環境の危機にある、ということについて今では誰も異論はないだろう。このような事態を招いた主な原因は、現代社会を支配する「技術と産業」にあるとして、そのあり方が議論されてきた。しかし、日本では恒に「これまでの産業社会を前提として、地球問題や持続可能社会が議論される。その結果、京都議定書についても、これまでのデータで明らかたとおり、ほとんど目に見える効果がないことは、すでに（先回も）述べた通りである。ただし、技術や産業は捨てるべき、ということではない。そこで、真に持続可能社会のための「地球にやさしい技術と産業」とは、どのようなものだろうか。

これを考えるとき、どれほど地球にやさしくあればいいのか、という「数量的な目標」を明らかにすることが大事である。しかし、そのことに関する議論は十分でないまま、皆が勝手に、「これこそ環境や地球にやさしい」という商品や売っている。例えば、燃費が数%改善された大型四駆が「地球にやさしい」なら、飛び道具を止めて刃物で武装した強盗団が、「市民にやさしい」と言っているようなものである。

本当に持続可能な社会のためには、ヨーロッパ諸国が目指そうとし、最近では日本さえも言い出している、二酸化炭素（したがって石油消費）の7、8割もの削減を目指すとするれば、いま我が国でエコ技術といわれる多くは、「地球にやさしい」とは言えない。

技術が人を不幸にする理由

地球にやさしい新たな技術を探るには、これまでの技術がなぜこのような副作用を生んだのか、という理由を知らなければならぬ。特に、19、20世紀に入つて、歴史が示すように「軍事」と「経済」の道具として技術と産業が飛躍的に発達した。軍事技術がもたらした悲惨な状況については繰り返すまでもないが、経済発展のための技術もまた、資本の原理に従った経済競争の結果として大量生産・大量消費の工業社会をもたらしした。

このような技術の副作用の一つは、これまで言及してきた「自然」に対するものである。特にその中でも、いま最も危惧されている気候変動に

いて、その原因であるCO₂は、現代の技術が全面的に依存している化石燃料に由来するものである。そのため、環境改善技術も含めて、化石燃料に依存するいまのあらゆる技術は、基本的に「地球にやさしく」はない。そのような意味で、温暖化問題こそ今日の技術に対する最終的な警告とも思われ、最近では「脱石油社会」という言葉も現実味をもってきた。ドイツで開発された、ペロ（自転車）タクシーなどが、日本でできない理由を考えるべきであろう。

環境問題とは別に、実はもう一つの深刻なものは「人間・社会」に対する影響である。今日の工業先進国では、あらゆる技術とその製品に囲まれているために、自分の暮らしが誰かの恩恵で支えられているという感覚は生まれる余地がない。スーパールの棚で何でも手に入り、蛇口をひねれば水が出てくるという状況で、自然の恵みを実感することが難しいだけでなく、他人の世話になつているという意識もなくなるだろう。それに代わつて必要なのは「お金」である。自らの労働の対価（と思つている）金さえ持つていけば、あらゆるものが手に入る状態では、感謝などという心はもはや必要としないだろう。また、このような現実の中で育つた人間が、他者や自然に対する共感がない、人と力をあわせることができない、我慢がないなどといわれる性向も、それが事実とすれば、技術の恩恵もたらした当然の副作用と考えられる。

真に地球にやさしい技術の方向

このような状況下で、いま地球環境時代に改めて、シューマッハが提唱した「中間技術(intermediate technology)」に対して関心が高まっている。本来、中間技術は途上国に対する技術支援が必ずしも成功しなかったことに対する反省から生まれた。工業先進国の巨大技術は資本や技術力に乏しい途上国では、自らの力で設置することも運転することも難しい。そこで、途上国の「資金、対応力、文化」などに適した、先端技術と土着技術の中間的な技術として定義されたものである。その後、工業国でも、巨大で先端的な技術がもたらす様々な社会問題や地球環境問題に対処するために、中間技術の発展形として、「適正技術(appropriate technology)」という考えが提案された。その特徴は、「市民の管理が可能で、生態的に健全であり、資本節約的で、地域資源活用型である」といったものである。

活用型である」といったものである。

さらにその後、「代替技術(alternative technology)」という提案がなされたが、これは「技術はそれを受容する社会の仕組みと不可分である」との認識に立つものである。このことは、かねて我々が、現代技術は大量生産・消費の物質文明の中で、グローバルな市場経済と連動して生まれてきたもので、このような技術・産業は、地球環境破壊はもとより、地域社会や地域文化の発展さえ圧殺するとしてきた主張と一致する。

代替技術はそのために、「地域の自給的生活、共同体的な社会経済構造」など、現代社会と大きく異なる社会の中で生まれるのが当然である。企業利益のみを目的とするような「産業技術」、戦争を目的とする「軍事技術」が、その発展動機となつてきた技術に代わるものとして、「市民による市民のための技術」を提案したい。

いまこの種の技術・産業に対して、先見性のある(特に中小規模の)事業者が関心を持ち始めている。このような技術のヒントが昔の智慧と経験の中に見出されるのは、当然であるが、いままさにそれが消えかかっている。その発掘・保存・再生が急がれる。

この古来の種に新しい水を注いで、真のエコ技術を地域から育てて花開かせたいものである。その具体的なヒントは次回に紹介しよう。



●(な)い(と) まやあき

〈経歴〉1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年京都大学工学博士、1995年京都大学工学部研究科教授。2002年京都大学大学院地球環境学専攻長(併任)
 〈現職〉(NPO)循環共生社会システム研究所代表理事、佛教大学社会学部教授
 〈専門〉環境システム学
 〈最近の関心〉循環システム・持続可能社会の概念の確立と仕組みの提案
 〈主な仕事〉NPO研究所による循環共生社会または自然共生型社会の実現に向けた研究と実践活動、および市民技術の形成

小さな村の大きな夢

今関 信子



イラスト：佐々木洋一

行きたい行きたいと思っていた、「天気村」へ行った。「天気村」は草津にある。

国道二号線を大津に向かって走り、天井川のトンネルを抜けたあたりで左に曲がって、細い道をくねくねと行く。(一人では行けないな……)と思ったとき、エンジンが止まった。

「着きましたあ。」

「ここなの。ええっ、ここがそうなの。広いじゃなく。」

私ははっとして赤くなった。失礼な言葉を吐いた、と気がついたのだ。

「天気村」は、山田貴子さんが立ち上げた。山田さんは、中学校の先生だったと聞いている。若くはないが、退職金を手にするほどの年寄りではない。だから、私は狭いところを想像していたのだ。

だが、「天気村」は、私の予想をはるかに越えて、どーんと存在していた。子どもたちが使う建物と、大人たちが集う建物は異なる顔つきをしている。庭は、バスと車が二台停まっていたが、子どもたちがおじいちゃんをやるくらいのスペースは充分ある。

「借金したんですよ。」と、山田さんはさらりと言った。「中学校で教えているとき、一人一人ちがうなあ。どの個性も生きてきたなあって、毎日、感動してたんですよ。どの子も生き生きさせてやりたい、そう思ったんですけど、学校教育の中では、それは許されない。私、だんだん苦しくなった。私はね、人生一度きり。力一杯楽しく生きたいと思っているんですよ。だから、「天気村」をやることにしたんです。」

「天気村」は、子どもを自然の中に放って自由に活動させることを、主な目的にしているそうだ。庭に停まっているバスは、子どもを活動の場所まで運んでいく役目を担っている。

「メンバーは、ほとんどが幼児ですけど、もう十八年もやっているんですよ。ここで育った子どもたちが大きくなって、活動を支えてくれるんですよ。それに、地域の人の協力も大きな力です。『花が咲いたから、つんでつららどつや。』とか、『この間、あそこでバツタをいっぱい見たで。』とか、声を掛けてくれるんですよ。私、この頃、子どもたちのふるさと作りしてきたんだなあって思うことがあるんですよ。あの子たちが幼いとき遊んだ場所が、最近、汚れてきているんですよ。そして、子どもたちが自主的にきれいにしようとするんですよ。『自分らが幼いとき、楽しいな、きれいな、気持ちいいなって感じた場所を、幼い子が感じられるような場所のまま渡さなアカんで』って言いながら、子どももって、身体でつかみ取りますよ。」

こんな大人がいて、地域があって、身体ごとぶつかれる自然があつて、たっぷり時間があつたら、子どもは、持っている力を全部使って育つだろう。

ちょっと一服のコーナー
M・O・Hの窓



信楽・多羅尾の民家。江戸時代に代官所があった。

投稿コーナー

会員の皆様の生き方を変えた
一言をご紹介します(敬称は略
します)

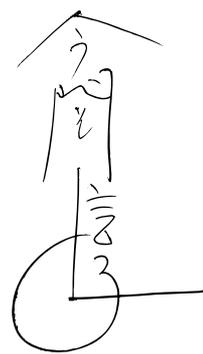
- 人生は人と人との出会い
大阪市 岡本利雄 58歳
- いつも楽しく
堺市 中尾善己 52歳
- 偶然は常に準備しているものに
味方する
大阪市 (株)尾崎エイジング
福岡久二 72歳
- 自分が自分にならないで誰が自
分になる
岸和田市 川島淳

- 経営者婦人も経営者
堺市 東谷麗子 40歳
- ありがとって、お金を頂けたら
一人前や
大津市 坂元宏行 41歳
- なんのため
湖南市 (有)ワークロード
川崎博治
- 希望、感謝
鳥取県米子市 塩治かをる
- 人間力とは他人を思いやる力だ
ある。それはすべて自分の責任と
思える範囲の大きさでもある
大分県 木下光一
- 和顔愛語
大津市 木津真嘉美 41歳

- 意識は行動をつくり
行動は習慣をつくり
習慣は人格をつくり
人格は運命をも切り拓く
高槻市 日高真吾
- 星の王子さまは言います。「た
いせつなことは目に見えないん
だよ。」って。サンIIテグジュペリ
「星の王子さま」より
滋賀県長浜市 小野幸弘 42歳
- 人は人では変わらない、自分の
意志でのみ変われる!!
大分県 清末浩一 37歳
- 整理せいとん 清潔
大阪府 株式会社シーキューブ
藤崎嘉雄

洋

● ささき よついち 1940年生まれ。高校在学中より習作のため、長浜市
周辺の風景を数多く描く。1964年長浜市展特選受賞以降受賞を重ねる。
滋賀県展特選4回受賞。西友長浜築市などで個展数十回開催。現在、デザイ
ン・製版事務所代表。著作には画文集「30年前の長浜」がある。市内にて洋
画入門講座を開き、後進の指導にも尽力。長浜日曜画家協会創立より代表世
話役を務める。長浜市在住。



「人間を信じたいわね。リズムは違っても、人間みな育つ力を秘めている
んだもの。信じていっわねえ。」
私たちは、なすすぎあった。
「天気村」につながる人たちは、ここで大きな夢を描く。きょうも、予ど
もたちの元気な声ははじける。

● いませぎ のぶ 1942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園
教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者
協会理事。
● 主な著書「小犬の裁判はじめます」1987年 童心社 青少年読書感想文コンク
ール課題図書。「さよならの日のねずみ花火」1995年 国土社 青少年読書感
想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の
村で『寺子屋』づくり」2003年 PHP研究所 など多数

環境破壊と南北格差

共時性の環境倫理 ①

本田先生の環境倫理学講座 Part.7

本田 裕志

■消費生活の南北格差

民間組織の発行する環境問題関連の定期刊行物としては世界で最も権威のある、ワールドウォッチ研究所の『地球白書』の昨年版(日本語版では二〇〇四〜〇五年版)によると、二〇〇〇年の時点における世界の個人消費支出の総額の六十パーセントは北アメリカと西ヨーロッパ(世界人口の十二パーセント)によって占められ、サハラ砂漠以南のアフリカと南アジア(世界人口の三分の二は、合わせて三二パーセントに過ぎなかつた)ということだ。同書はこのほかにも、一九九九年の時点で世界人口の五分の一にあたる十二億人が、一日一ドル以下の生活費で暮らす絶対的貧困層に属すること、そのうち八億人強の人々が栄養不足の状態にあること、一人一日二十リットル以上を利用できる水場が住居から一キロメートル以内にはない人々が十一億人もいることなど、深刻な事実を次々に伝えていきます。地球上には、私たちのように「飽食暖衣」をはるかに越えたレベルの消費生活を日々送っている人間がいる一方で、健康な生活を保つのに最低限必要な食糧や水さえ得られない人々も、数多く存在しているわけです。

■環境負荷の南北格差

このような消費生活の巨大な格差は、当然、資源利用量と廃棄物の排出量の格差に直結しています。同じ『地球白書』によれば、一人当りの紙の年間使用量は、アメリカの三百キログラムに対して、いわゆる「途上」国は平均約十八キログラム、アルミニウムのそれは、アメリカの二十二キログラムに対してアフリカ諸国は平均一キログラムに満たないようです。また、「京都議定書」等でCO₂排出量の削減目標の設定のための基準値とされている一九九〇年前後のCO₂排出量を見ると、各国の国民一人当りの年間排出量は、アメリカが炭素換算値で六トンに近く、日本も二トンを越えているのに対し、「途上」国の多くは〇・二トン以下です。これはつまり、いわゆる「先進」国の国民は地球の資源・環境に対して、一人で「途上」国民の何十人分もの重い負担をかけているということを意味します。

■環境破壊と共時的な不正

上の事実はそれだけでも著しい不正と言えますが、環境破壊との関連で見ると、さらにひどい不正につながっています。第一に、温暖化やオゾン層破壊による被害は、原因物質であるCO₂やフロンを大量排出している「先進」国だけでなく、そんなものをほとんど排出していない「途上」国にも等しく及ぶという意味で、「途上」国は「先進」国が引き起こした環境破壊の「巻き添え」にされています。第二に、「途上」国の多くは資源生産国であり、「先進」国の大量消費に必要な資源の供給を強いられることで、自国の環境を破壊されています。このような例は、森林破壊の問題だけに限つても、アメリカ向けのファーストフード用牛肉生産のための牧場開発による中南米の森林破壊、日本向けのエビの大量養殖による東南アジアのマングローブ林破壊など、枚挙に暇がありません。環境破壊が未来世代に対する不当行為を意味することはすでに述べましたが、このように見てくると、私たちは現に地球上に生きて存在している多くの人々に対しても、大量消費と環境破壊を通じて重大な不当行為を行っているということがわかります。

■不正を否認する議論

しかしこれに対して、右のような不正は見かけだけのもので、本当は「先進」国と「途上」国との間に不正など存在しない、という主張があります。その理由として挙げられるのは次のようなことです。

- (1) 二十世紀後半以降、「先進」国の人口が安定しているのに対して、「途上」国の人口は爆発的に増えており、その結果としての地球人口の急増が、環境破壊の重大な原因となつている。それゆえ、大量消費を行なつてきた「先進」国だけでなく、人口爆発を放置してきた「途上」国にも環境破壊の責任があり、「先進」国の引き起こした環境破壊に「途上」国が巻き添えにされているとは言えない。
- (2) 資源生産国である「途上」国が豊かになつて「先進」国との格差を縮めるためには、資源を「先進」国に大量に輸出して収入を得るとともに、自国の力では困難な「資源の製品化」を肩代わりしている

オノミユキの

節約生活術(?)

作:オノミユキ

電気代節約のため



ひと部屋に 家族集合。

食費節約のため



ヨモギ、ツクシ、フキノトウ...
食材さがしに 米精を出す。

水道代節約のため



川で野菜を洗う。

トイレの汲みとり料
節約のため



ダーリンと息子は 外で立ちション

家計が潤えば、地球も潤う!

「途上」国に環境破壊の責任はあるか

「先進」国から物的援助を受けて、自国の近代化を進める必要がある。したがって、「先進」国の大量生産・大量消費は「途上」国の犠牲の上に自分たちだけが豊かさや贅沢を享受するという不当行為では決してない。

右の主張は正しいでしょうか。まず、(1)が成り立たないことはすぐわかります。「先進」国の国民一人が地球の資源・環境にかけている負担は、「途上」国の人々の何十人分にも当たる、ということはずでに見たとおりです。「途上」国の人口増加は事実でも、そのことが環境破壊の原因として作用している程度は、私たち「先進」国民のしていることに比べれば、大きいとは言えません。さらに、この人口増加そのものの原因はいろいろ考えてみるべきです。バース・コントロールをしようとしても、一日二ドル以下の生活費しかない人々が、それに必要な避妊具をいっただいどうやって手に入れるのでしょうか。子供のいない、あるいは少ない

たいどうやって手に入れるのでしょうか。子供のいない、あるいは少ない家庭で、いったい誰が、毎日何キロも歩いて水汲みや薪取りに行くのでしょうか。社会保障も整わず、生まれた子供が幼くして病气や栄養不足のために死んでしまいうリスクの高い国の人々が、子供を沢山生んでおかなかつたら、老いて働けなくなったときどうやって生活してゆくののでしょうか。貧困こそ、人口爆発をもたらす原因であり、地球上の一部の人々をこの貧困に追いやるものこそ、右の格差と不正なのです。だからこそ、そういう国々から資源を大量に買って消費すべきなのだ、と(2)の論者は言うことでしょうか。今回はこの主張のインチキをあばくことから始めましょう。

本田 裕志

● ほんだ ひろし 龍谷大学文学部助教授 (専攻 哲学・倫理学)

● オノミユキ (本名 加藤 みゆき) 1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。1977年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子どもを子育て中。次号から漫画ルポを執筆の予定。お楽しみに。

循環型社会を支える基本理念

循環型社会入門④

森 建司



イラスト：佐々木洋一

2. エコライフを創るエコ村の条件

われわれ自身も、若い後進の人たちも、未来に希望をもって逞しく生きていくためには、未来の理想像を描き、その実現に向かつての志を示さなければならぬ。とくにわれわれの世代の義務として、自分達が歩んできた道を、子孫が歩みつづけても良いものかどうか、検証し、模索して、未来の人類の幸せに貢献する社会を描き出し、後進の為に残さなければならぬ。

もちろんどの世紀を生きてきた生き様などの違いで様々な考え方があろう。だからこそ、現在の社会を構成する各界各層の論議が（勿論国際的にも）もつとなされて然るべきだ。

中でも環境問題に解決策を示す事が最大の課題であるが、その解決方法の提案も様々である。

その一つは更なる科学技術の進歩と、右肩上がりの大量システムを究極の目的としてきた経済力によって解決できるとする考え方が、政府や経済界を通じて主流を占めている。

この対極にある考え方は、自然の中で多少の不自由を凌ぎつつ、20世紀には忌み嫌った3Kも受け入れ、快適さや力強い生き様を、過去体験してきたようにもう一度やり直そうと言うものである。

循環型社会のあり方についてもこの対極構造は当面は続く事だろう。

さて「M・O・H通信」7号ではエコ村を特集している。われわれがエコライフと言う時、具体的にどのような暮らし方をするのか。環境問題など現社会の危機意識を机上論に留めず、実際にそれらしき生活空間に居住し、そこでエコライフと呼ぶのに相応しい暮らし方を体験してみようと言うのが、エコ村構想の基本理念である。

過疎化した地域の集落では、居住空間の条件として「職・学・遊」がなく、「都市的機能」のないところから若年層が寄り付かず、老人達が取り残されている処も数多くある。その集落では老人達が間違いなく、エコライフを実践していることであろうが、そのような集落が昔のような賑わいを取り戻すためには、何が必要かも考えつつ、エコ村の設計に当たりたいものである。

地産地消の言葉どおりそれぞれの地域に根を下ろした生活空間であり、その周辺の既存の集落とも乖離することなく調和し、住民同士の交

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
ダイジェスト版で2005年4月～5月の講演をお知らせします。



- 日 時:2005年4月24日(日)
- 主催者:滋賀県総務部税務課
- 目 的:新たな森林づくりのための施策に必要な経費を、税方式により県民に負担を求めることの必要性や、しくみの概要などについて
- テーマ:新たな森林づくりのための税を考えるフォーラム
- 場 所:野洲文化小劇場
- 参加者:170名
- 演 者:森建司、加藤みゆき(漫画家、自然観察指導員)、北田俊夫(NP Oびわこ豊稷の里理事長)、小坂育子(水と文化研究会)
- 内 容:パネルディスカッション



- 日 時:2005年5月31日
- 主催者:龍谷大学国際文化学部
- 目 的:学外講師
- テーマ:実り多い循環型社会の生活とビジネス
- 場 所:龍谷大学 瀬田学舎
- 参加者:50名



- 日 時:2005年5月27日(金)
- 主催者:野洲市教育委員会事務局生涯学習課
- 目 的:野洲市生涯学習まちづくり委員の委嘱

- テーマ:実りの多い循環型社会のまちづくり人づくり
- 場 所:コミュニティセンターきたの
- 参加者:87名
- 演 者:森建司
- 内 容:1、行き詰まった経済至上主義 2、自己矛盾の数々 3、循環型社会形成へのスタート 4、金儲け以外の「人生の志」 5、風紀の乱れ

流が自然体でできるような地域が、形成されていくことが望ましい。
前段の科学技術に頼るのか、極力自然の恩恵を受け入れる態勢でいいのか。例えば省エネに於いても、住宅を気密にし外気と遮断する事を基本にする考え方と、いま一つは、快適な外気や熱を有効に取り入れ、樹木や草木の配置や、住宅の素材や佇まいなどの工夫で効果を挙げる事も出来るだろう。あまりに突出した先端技術の住宅で、そこだけが孤立してしまうような集落は望ましくない。
おそらくは今後、住宅団地の建設に当っては、エコ村志向の考え方が数多く出てくることだろう。また、その地域、あるいは入居者の思いによって、設計の方向は様々になるが基本的な「エコ村基準」は確立したいものである。

20世紀のものの豊かさのみ走った幸福観、価値観を変える事によって、きつと理想とする居住空間、生活環境が形成される事を信じて止まない。
次号では二つのエコ村グループの到達した「エコ村基準」を紹介したい。

もり けんじ ● 1936年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長、滋賀県教育委員会委員など
著書/吃音はななる 遊タイム出版

森建司

「人間学」を学ぼう

その1

井上 昌幸

今回からは「人間学」について学んでいきたいと思えます。私達はよく自分の行動を振り返り、何をなすべきかを考えることがありますが、思うように自分を変えることが出来ません。そこで、何かに気づき、意識して行動を起こすために、古今東西の先賢の言葉などを学んでそこからヒントが得られるようにしてみませんか？

自分の気づき その1

- これからいよいよあなた自身を探索する時が来たのです。人生において最も大事な時期が来たのです。
 - としてもっと重要なことは、この宇宙に二人とは無い自己とは何か、ということの探求です。
 - この時に多くの人は先ず驚く。自分のことについては、大抵知っているように思うが、これはむしろ錯覚である。
 - 自分との対話によつて、新しい目と心を見出し、世の中のすべてが常識的な過去の見方ではなく、新しいものに変わってくるのである。
 - 自己との対話でかくれた自分を引張り出しなさい。あなたでなければ、出来ないような特性がある筈だ。その特性を見極めるのが、自己との対話である。
 - 自己との対話は、よく考えることである。よく考えることは、感謝することであり、拝むことである。
 - 経験に囚われないで、希望に向つての情熱を燃やす。自己との対話をあなた自身で求め、これから一層努力と精進を怠らないように祈る。
- 平澤 興先生著「生きよう 今日も 喜んで」より

自分の気づき その1

楠正成がまだ若い頃、奈良街道を歩いていて一人の坊さんと道連れになり、その坊さんに「時に貴方はどなたですか？」と尋ねられ、「楠正成」と申します。」と答えた。しばらくして坊さんが「楠正成」と呼んだので「はい」と答えると、「それは何者ぞ」と聞かれ、正成は答えられなかった。このことから正成は大いに発憤して自分を磨いたと伝えられている。中国の禪宗で六祖慧能というえらい禪師の弟子に南嶽という人がいた。慧能は毎朝南嶽を見ると「おい、南嶽」「はい」「はい」と言った奴はいったい誰だ？」つまり、汝は何者ぞと尋ねられるが返事ができなかつた。このように毎日尋ねられて、八年目に悟りを開くことができたと言われている。また、ある修行僧は自分に対して、「おい、主人公」「はい」「はい」と言った奴はいったい誰だ？」を繰り返して、十八年目に悟りを開くことができた

たからお前も頑張れよと尊敬する老師から云われたことを今でも鮮明に覚えている。

太田道灌が若い頃、狩に行き、にわか雨に遭い、近くの農家に蓑を借りに行った。少女が山吹の一枝を差し出して何も云わなかつた。道灌は何のことかさうばりわからなかつたが、後に「七重八重 花は咲けどもやまぶきの 実のひとつだに 無きぞかなしき」(蓑はありません)の意味であることを知った。このことから、太田道灌は自分の無学を恥じて、大いに学び、立派な殿様になったということである。

以上のように何かのキッカケで「自分は何者ぞ」に気づき、自分の生き方を見つけることができる人は幸せである。

自分の気づき その1

私たちは毎日の生活の中で多くの出来事に会っています。自然の移り変わり、様々な人たちとの出会い、マスメディアからの情報、読書からのヒント等多種多岐にわたります。

そのような中から自分なりに「気づく」ことがあるはずですが、それに気づいていないのが実情であります。

「気づく」ことは「意識すること」であり、そして何らかの行動の変化に結びついてゆくものです。

次の言葉をよくかみしめて、自分をかえてみてください。

『自己 変 革 七 則』	
心をかえると	態度が変わる
態度をかえると	行動が変わる
行動をかえると	習慣が変わる
習慣をかえると	人格が変わる
人格をかえると	運命が変わる
運命をかえると	使命が変わる
使命をかえると	人生が変わる
問題はどれだけ自分をかえるか	
かえる積み重ねをするかである。	

(石川 洋先生から学ぶ)

自分の行動を見直す、そして改善する

日々の生活を見直して気づくことがあり、少しでも改善した方がよさそうであれば、自ら「努力」してみたら如何でしょうか。

一、 毎日の飲食を適正にやっているかどうか、過度や不合理でないかと

本の紹介

最近入手した、気になる本をご紹介します。

本

「カオハガンからの贈りもの」



- 著者／崎山克彦
- 発行所／海竜社
- 価格／1600円十税
- 内容／碧い海に囲まれた南の小島・カオハガン。退職金でこの島を買い、以来寝食を島民と共に過ごす著者が、モノが「無い」ゆえの「豊かさ」を記す。カオハガン島の日々の風景を、カラー写真で掲載。

「環境思想を学ぶ人のために」



- 編者／加茂直樹 谷本光男
- 発行所／世界思想社
- 価格／1893円十税
- 内容／哲学、倫理学の視点から環境問題に対しての知を深めることを目的とした論文集

「なぜ通販で買うのですか」



- 著者／斎藤駿
- 発行所／集英社
- 価格／700円十税
- 内容／通信販売の魅力はどこからくるのか、そしてそれに魅了される消費者の心理とは。『通販生活』(カタログハウズ)を創り上げた現役社長がその秘密に迫る。また、人々が認知し、信用し、支持するメカニズムについても実例で示している。

「日本のこころの教育」



- 著者／境野勝悟
- 発行所／致知出版者
- 価格／1200円十税
- 内容／神奈川県大磯。この地でこころの塾「道塾」を主宰している東洋思想家の著者が、ある高校で「日本人のこころ」をテーマにした講演に若干の加筆・修正を加えた講演録。「部構成」となっており、後半部分には生徒の感想文数十編を収録。

「心の拳―測上博昭 自伝―」



- 著者／測上博昭 根津真澄
- 発行所／オリシナルブックマイン
- 価格／1500円
- 内容／ある空手道場の総師範、測上博昭。彼には脳性小児マヒによる障害ゆえ過酷なじめを受け、自らの存在意義を見出せずにいた少年時代があった。過酷な少年時代から、洗心會道場、障害者武道會を設立するまでの軌跡として家族への愛を綴った自伝。

- 二、毎晩、安眠・熟睡ができていますか
- 三、自分の心身に影響を与えているような悪習慣はないか
- 四、適度な運動をしているかどうか
- 五、自分は日常生活上の出来事に一喜一憂し易くないか、つまり日常の出来事に軽々しく感情を乱されるようなことがあるか
- 六、たとえそういう精神的動揺があっても、仕事は平常通り続けられるかどうか
- 七、毎日の仕事に自分を打ち込んでいるかどうか
- 八、自分は仕事にどれだけ有能であるか、自分は仕事に適しているか
- 九、現在の仕事は自分の将来の仕事とするに足りるかどうか
- 十、仮に自分の仕事はどうしても自分に合わない、自分の生活が退屈であるとすれば、自分の満足を何によつて得るか
- 十一、自分が毎日絶えず追求する問題を持ち続けているかどうか、今日何をしなければならぬかという仕事を持っているかどうか

井上昌幸

- 十二、自分は人に対して親切であるか、誠実であるか、ちゃんぽらんではないか
 - 十三、人格の向上に資するよう教養に努めているかどうか
 - 十四、特に何か知識・技術を修めているかどうか、何らかのエキスパートになる努力をしているかどうか
 - 十五、自分は何か信仰、信念、哲学を持っているかどうか
- 安岡 正篤 先生著「人生の大則」より
- いのつえ まさゆき 11940年1月1日生まれ。1961年大阪府立大学工業短期大学部卒業。1961年日本電気硝子(株)入社。2000年日本電気硝子(株)定年退職。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人。資格/ISO14000&9000審査員候補

《会費について変更のお知らせ》

皆様から頂戴しております、会費につきまして変更をした
と思いますので、お知らせします。

- 会費＝一口3000円(1口＝1冊、2口＝10冊、3口＝50冊、4口＝100冊、5口＝150冊)
- 有効期限＝4月1日～翌年3月31日
- 入会受付＝随時。ただし有効期限は3月31日までです。
- 入金方法＝変更有りません。銀行振り込み、現金受領、現金書留をご利用ください。
- ご注意＝本誌に入会チラシ、または会員更新願いが同封されている方につきましては、お手数ですが、ご入会通知書を返送してください。また、会員申込をいただいている方につきましても、口数確認のため、今一度ご記入くださいますようお願い申し上げます。誠に勝手なお願いで恐縮ですが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

編集部

《次号予告》

2005年8月末発行予定

特集：①循環型社会の実践を探る

②心の琴線にふれるこだわりの人たち

連載：循環共生社会研究所 代表 内藤 正明氏

連載：作家 今関 信子氏

連載：龍谷大学 助教授 本田 裕志氏

連載：循環型社会システム 代表 森 建司氏

連載：井上 昌幸氏

挿絵：佐々木 洋一氏

漫画：オノ ミユキ氏

写真：辻村 耕司氏

《編集後記》

■現代は効率主義から何事もマニュアル主義であり、人々の行動を決める規範なども具体的な方法論が主流です。環境についても民間のISOから国や自治体の施策もすべて「今、何をすべきか」を説くだけで、その行動を支える理念、哲学が語られていないか、不十分です。だから挫折も早い。そこを担当するのが「M・O・H通信」の役割だと自負しています。……建

■循環型社会という概念が世間で通用するようになり、意識を変える必要も認識されるようになりました。はつきり言って驚きです(世界では30年も前からロイヤルクラブというシンクタンクが提唱していることですが、これを追い風と呼ぶのでしょうか？ 活動の進行が早いため通信が追いつきません。今号は行政の取り組み実践紹介、来号は住民の生き方の実践を取り上げます。だんだん、私の範疇を越えてきました。そろそろ、皆さんの手をお借りしなければ、ご協力くださる方、大募集です！……琴

M・O・Hニュース

「もったいない」を世界共通語に、自民党50年プロジェクト、節約運動展開へ・・・2005年6月7日 京都新聞朝刊

自民党は6日の役員会で、立党50年プロジェクトの一環として、モノや時間、エネルギーの大事さを訴える「もったいない運動」を展開することを決めた。

KIESS設立5周年記念シンポジウム開催 参加者募集中

京都市左京区にあるNPO法人循環共生社会システム研究所では、設立5周年を記念して、シンポジウムを開催する。9月9日(金)10:00～16:30。「持続可能な地域づくり—その考え方と具体的な手順—」と題して、アーネスト・カレンバック氏(アメリカ:小説エコトピア著者)エクトハルト・ハーン氏(ドイツ:ドルトムント大学空間計画研究所所長)、ピーター・ハーパー氏(イギリス:CAT・UK研究所所長)をゲスト・コメンテーターに迎える。申し込み、問い合わせは事務局075-752-1133まで。

國松知事から仕組みと常識を変えていく必要性の発言

第2回全国菜の花学会・楽会が東近江市あいとうエコプラザ菜の花館で開催

第2回全国菜の花学会・楽会が4月29日(金祝)～30日(土)、東近江市あいとうエコプラザ菜の花館で開催された。両日とも町内外から550名の来場者でにぎわった。基調講演では滋賀県知事 國松 善次氏が「菜の花プロジェクトと未来世代への期待」と題して、菜の花プロジェクトの取り組みに対する期待と未来世代へ向けた社会を変える、常識を変えるチャンスが来たことの期待について講演があった。菜の花トークでは、國松知事と総理官邸内閣参事官・末松 広行氏、菜の花プロジェクトネットワーク会長・藤井絢子氏のトークが行われた。國松知事から仕組みと常識への挑戦「三方よしプラス地球によし」の哲学の必要性が語られ、末松参事官は国の税制改正と政策展開について突っ込んだ発言が聞かれた。

《M・O・Hの会》入会受付中!

あなたも「M・O・Hの会」に入会なさいませんか。会員特典として、M・O・H通信、会員交流会、講演会のご案内をいたします。ご近所お誘い合わせの上、ご入会ください。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。加入口数によってお届け冊数が変わります。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

キリトリ線

《M・O・Hの会》入会申込書

フリガナ		年齢	
お名前			
住所	〒		
電話		FAX	
メールアドレス			
希望口数 (○をして下さい)	1口=3,000円(1冊)、2口=6,000円(10冊)、3口=9,000円(50冊)、4口=12,000円(100冊)、5口=15,000円(150冊)、		
あなたの心に残った一言を書いてください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

M・O・H通信 Vol.7(通巻8号)

2005年6月30日発行

●編集・発行/循環型社会システム研究所 M・O・Hの会

M・O・Hの会事務局

循環型社会システム研究所(新江州(株)内)

代表 森建司 デザイン 伊達デザイン室

編集長・取材 ツジムラ コトミ 写真 辻村写真事務所

編集協力 稲垣 重雄 印刷 (株)ワキプリントピア
村山 明子

〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

email: tsujimura@shingoshu.co.jp

【入会費振込先】

M・O・Hの会 代表 森建司

●滋賀銀行 長浜支店 普通 136987(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

●長浜信用金庫 本店 普通 0577468(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

●びわこ銀行 長浜支店 普通 721691(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

※記事中で写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。